



理想日本の姿。

参政党の国会議員18名紹介  
日本人ファースト参政党  
〈3つの柱と9の政策〉



## “3つの柱と9の政策”

この国と国民の未来を守るために、参政党が進める重点政策



### 1 日本人を豊かにする

～経済・産業・移民～

#### 1 “集めて配る”より、まず減税

現在、日本の国民負担率は約45.8%に達しています。この国民負担率を上限35%に抑え、減税と社会保険料削減で給料の3分の2は手取りで残します。

- 消費税の段階的な廃止を推進
- 社会保険料を見直し、手取りを増やす
- 医療制度を予防中心にシフト
- 経済成長による税収増を基本とする構造へ

#### 2 “勝つ産業”で日本再興

人工知能・製造業（自動車など）・サブカルチャーを重点政策「三本の矢」として支援。これらの成長産業を支えることで、国際競争力のある持続可能な経済を築きます。

- AI開発ファンドを創設、国内開発力を強化
- IoT導入などによる中小企業のスマート化
- 地域産業の技術継承・人材育成を支援
- サブカルチャーを文化外交・基幹産業として育成

#### 3 行き過ぎた外国人受け入れに反対

日本は日本人で支える国に。移民の課題は「外国人総合政策庁」で一括して取り組み、国民生活と国益を第一に考えた安全で安定した社会を実現します。

- 高度人材を優先、単純労働者の受け入れ制限
- 日本語・文化理解を受け入れ要件に
- 土地購入・生活保護などの制度を厳格化
- 外国人参政権・帰化一世の被選挙権を否定

### 2 日本人を守り抜く

～食と健康・一次産業～

#### 4 米の確保と食の安全

現在の食料自給率38%という危機的状況を打破するため、食料自給率100%、食品表示法の改善、オーガニック給食を推進。日本の未来を守る「食」の再構築を。

- 米の増産・輸出奨励、化学肥料の国産化
- 農林水産業従事者の公務員化で担い手確保
- 食品表示法を改正、添加物・遺伝子情報を開示
- 有機食材を使った地産地消型の学校給食を推進

#### 5 GoToトラベルで医療費削減

健康で医療費削減に協力した高齢者には国内旅行券を配布し、予防医療への取り組みと国内旅行支援を組み合わせた政策を提案します。

- 医療費削減に協力した方に旅行クーポンを支給
- 約5兆円規模の医療費削減効果を想定
- 予防医療に保険適用を拡大
- 観光業の国内需要喚起と地域振興を同時に達成

#### 6 金儲け医療・WHOパンデミック条約に反対

参政党は、外圧に屈しない独立した感染症対策の体制を構築すべきと考え、医薬品業界や各国の利権が絡むWHO主導の新型感染症対策を見直します。

- 再発防止のための独立した国内分析機関を設置
- 国際機関よりも国内判断を優先
- 危険ウイルスを扱う施設の立地規制を強化
- 医療の主権を守り、利権に依存しない体制を構築

### 3 日本人を育む

～教育・人づくり～

#### 7 偏差値重視の管理教育を廃止

偏差値重視の教育から脱却し、自国への誇りや家族愛、社会貢献意識を育む教育を進めながら、愛と勇気を土台にした新しい教育で、日本の再生を図ります。

- 神話・歴史・郷土偉人を学び、誇りを育てる
- 家族愛・社会形成の重要性を教える
- 偏差値に依らない「人づくり」の教育へ
- 自信と主体性ある若者を育成

#### 8 子供一人につき月10万円

すべての子供に平等な教育機会を提供するため、0～15歳の子供一人につき月10万円の教育給付金を支給。安心して子育てできる社会の実現に向け、経済的支援を強化してまいります。

- 保育・教育・生活に柔軟に使える給付金
- 奨学金改革：返済不要型や公務員で返済免除
- 教育格差を是正し、安心して子育てできる社会へ

#### 9 憲法づくりで政治に哲学を

参政党は、護憲・改憲という枠を超え、日本人自身が自らの手で新たな憲法を創る「創憲」を提案。ゼロから憲法を創ることで国民の意識改革を促します。

- 戦後占領下で作られた憲法の限界を克服
- 歴史・文化・精神性を反映した国のかたちを再構築
- 国民が政治に主体的に関わるきっかけに
- 自由と責任、国家の哲学を共有する憲法へ

参政党は、日本全国に289の支部を設立し、「国民が政治に参加する政党」として、特定の支援団体に依存せず、国民の声が届く「新しい政治」を目指しています。各地域で話し合い、学び、協力体制を築きながら議員を輩出しています。

参政党のサポーターになりませんか？  
参政党からの活動報告やイベントのお知らせを週に一度メールで配信します。お気軽にご登録ください。 [ご登録はこちら](#)



神谷宗幣代表に聞く。

© 参政党はHP/SNSでさまざまな情報を発信しています。是非、下記QRコードから視聴ください。



YouTube参政党チャンネルでは参政党の記者会見、委員会質問、街頭演説など国民の知るべき情報を発信しています。

参政党チャンネル



# 参政党・神谷宗幣代表に聞く、 18議席獲得の舞台裏と 今後の戦略、目指すべき 日本の理想郷

——参院選では14議席獲得という結果でした。率直なご感想を聞かせてください。

**神谷** 想定以上の結果なので、嬉しい反面、とてもプレッシャーを感じています。議席数が増えるという事は『その期待に応える』という責任が伴います。問題提起して大きな力をいただいたわけですから、訴えた内容をひとつひとつ形にして少しでも前に進め成果を積み上げていかないとならない。その重圧を日々感じています。

——想定を上回る結果が出た要因をどう分析しますか？

**神谷** 打ち出した政策が時代のニーズにマッチし多くの国民から支持をいただいた事は大前提として、やはり梅村さんに入党いただいたことで俗に言う『五人要件』が満たされ選挙直前からテレビに出演できたことが大きかった。そして左派メディアが参政党を叩いたことで認知が広がり、逆張りの応援も増えたことですね。これは想定外でした。もちろんこの結果のベースには何より全国の党员さんたちが草の根で頑張ってくれたことがあります。いろいろな状況が重なって今回のような支持をいただけたと考えていますが、果たしてそれだけでここまで



で来たのか？変な言い方になりますが、目に見えないような力が働いたような気がしますよね。

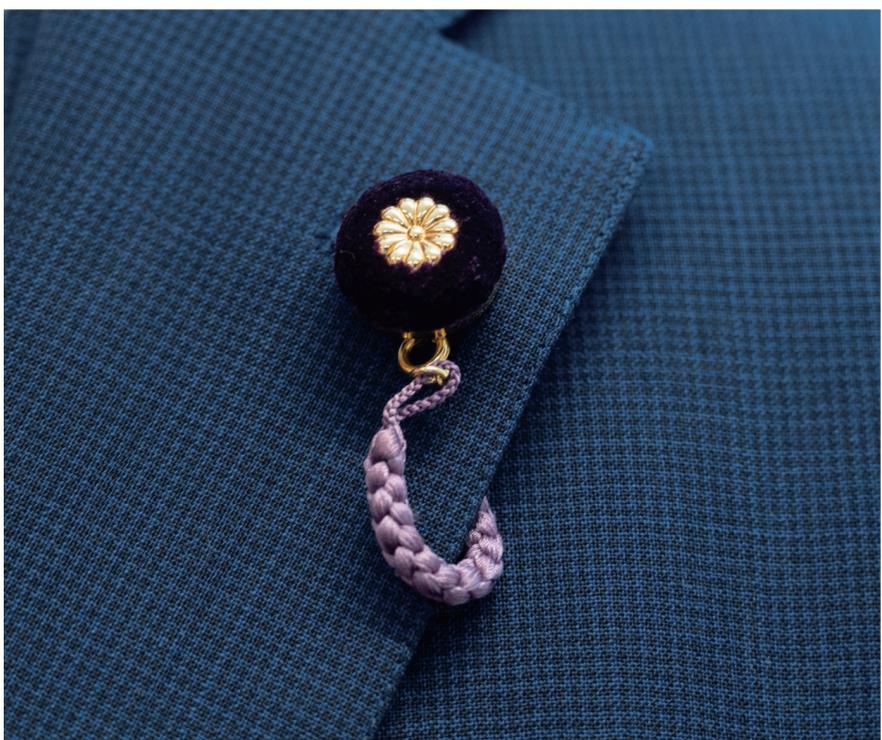
——今回の選挙では外国人問題や教育問題など、他党が避けがちなテーマにも積極的に取り組まれました。これは戦略的な判断だったのでしょうか？

**神谷** 選挙に勝つために戦略的な判断で政策を作ったか？という意味であれば、それは全く違います。選挙のために世論に迎合しようとは全く考えていません。私は吹田市議をしていた頃から他の議員が避けるような問題提起を『本当にこのままでいいんですか』とずっと投げかけてきました。これは戦略というよりは理念・哲学としての判断です。議員が何かを変えるのではなく、国民自体が世の中の問題や社会の課題を認知して、考え、変えていかないとけない。そのための問題提起をするのが私の、政治家としての役目のひとつだと考えています。国民がいままのまま目覚めず、政治に無関心なままなら日本の民主主義は終わりですから。

——その一方で、今回の選挙ではメディアや外部団体から参政党に対する激しい攻撃や妨害が続きました。

**神谷** そうですね。外からも内からも力がかかっていろんな事が起きます。分かりやすい妨害もあれば、調略的なものもあれば、情報漏洩もある。正直、心は荒みますし、本音で率直に言うと『やっつらんねえわ』という気持ちもあります。でも、それだけ潰したい、邪魔したいという事は、我々の主張が核心を突いているということの裏返しでもあると捉えています。これは戦いなんですよね。政治は武力を使わない戦いです。我々が伸びることで失うものがある人もいますので、我々は誰かから何かを奪いたいわけではない。『みんなのために社会を良くしたいんだ』ということをお分かってもらえるまで伝え

The big vision is independence and self-respect.  
We want to stand on our own,  
make decisions and actions on our own,  
and keep Japan as a sovereign entity.



参政党は、「議員バッジは侍の刀のようなものである」と考えています。権力の象徴である議員バッジを付ける者として、私利私欲ではなく哲学や国家観を持った政治をしなければなりません。参政党議員は、そのように意思統一をし、それぞれの議会で国民・国益のために役割を果たします。



参院選は前回衆議院選挙の187万票から742万票と大幅に票数を伸ばし、14議席（現職を合わせて18議席）を獲得するという「奇跡」を成し遂げた。この歴史的な結果を受けて、神谷代表に率直な感想と今後の展望、そして理想とする日本の国家像について話を聞いた。



続けるしかないと考えています。

——参院選での大躍進を受けて、今の具体的な課題は？

**神谷** まずスパイ防止法の提案、そしてコロナ対策・パンデミック対策の見直しですね。参政党だけでは法案を通すことはできませんが、他党とも協力しながら問題提起をしていかなければ先に進まない。あとはやっぱり外国人問題ですね。日本には政策的な課題が山積みです。その一方で急いで進める必要があるのが参政党の組織強化と議員の育成です。20人近い国会議員を連携させて動かすのは簡単ではありません。しっかりとした体制を作る必要があります。さらに、衆議院選挙の準備も急がないといけない。不意打ちのような形で選挙になった時に『準備ができていません』では話になりません。選挙後も支持は伸び続けているので、その受け皿を作らないといけない。課題は山積みです。

——視点をもう少し未来に移して、日本をどのような国にしたいと考えていますか？

**神谷** 大きなビジョンで言えば、独立自尊です。自分たちの足で立ち、自分たちで考えて『日本はこうありたい』『こうあるべきだ』ということを実践できる国にしていきたい。

今は軍事一つ取っても、アメリカの軍事力がないと国は守れない。そうではなく、自分たちで国のあり方を決められるだけの経済力を持ち、エネルギーや水なども自給自足できるようにすることがファーストステップです。

自分たちで考えて

『日本はこうありたい』

『こうあるべきだ』ということを

実践できる国にしていきたい。

# 人間が自然に近いところで暮らせる社会がいいですね。

価値観の中心が損か得か、お金がどうこうとかではなくて。自分の命の使い方として満足がいくかどうか、それが価値判断の基準にある社会です。

## 神谷宗幣



Our ideal society is where people can live closer to nature, and is not based on personal gain or monetary profit. It's the society where value is drawn from quality of life.

Sohei Kamiya

にも言及しています。この独特なスタンスについては？  
**神谷** 保守か革新かという混ざって見えるかもしれないが、私たちの軸の立て方はそこではなく「グローバリズムか、反グローバリズムか」です。グローバリズムは世界を一つにして、多国籍企業が自分たちの利益を最大化する社会を作ろうとするもの。行き着くところはワンワールドで一つのルール、一つの統一政府でしょう。しかし日本には日本のやり方がある。我々はグローバリズムではなくインターナショナルイズム、グローバル化ではなく国際化を大事にしています。その大前提の中で日本には日本の食に対する考え方、健康維持に対する考え方、政治のやり方、文化、伝統、言語があります。それを自分たちの頭で考えて最適なものを作っていききたい。「これが国際基準だ」と言って思考停止するのではなく、本当に国際ルールが正しいのかを冷静に考えていかなければならないと考えています。「これを言っているから右翼だ、左翼だ」という部分視観ではなく、我々ももっと大きく俯瞰しながら、それはグローバルイズムの流れそのものなのか、それとも日本を良くするためのことなのかという視点で見ている。そこが、見方の違いかなと思います。—— 共産主義も失敗し、資本主義にも疑問がある。左翼も右翼も問題があると思われるなかで、参政党の立ち位置は大変？  
**神谷** 大変ですね。だから右からも左からも叩かれるんだと思います。でも、日本人は元々、中庸という考え方を持っているのです。結局はバランスなんですよ。私は保守って実は、バランスかなと思ってるんです。いいものは残し、悪いものは変えてほしいと所を落し所を決めていく。よく右翼と左翼、革新と保守って分けますが、保守っていうのはバランスを取って、中庸な政治を心がけることじゃないかと。難しいですけど、そのバランスを取るのが政治家の役割だと考えています。だから政治家はみんなの話を聞かないといけない。今だ

けでなく、過去のいろんなことを振り返らなければいけない。今だけ見ていると偏るので、やっぱり1000年、2000年ぐらいの歴史を振り返りながら判断する必要があります。私はなるべく長い時間軸で、なるべく広い視野で中庸というのを見てきたい。  
【中庸 ちゅうよう】  
1...かたよることなく、常に変わらないこと、過不足がなく調和がとれていること。  
2...アリストテレスの倫理学で、徳の中心になる概念。過大と過小の両極端を悪徳とし、徳は正しい中間(中庸)を発見してこれを道徳とすること。  
—— 最後に、神谷代表が描く理想郷、理想的な国について、具体的なイメージがあれば教えてください。  
**神谷** イメージなので抽象的な表現になりますが、人間が自然に近いところで暮らせる社会がいいですね。価値観の中心が損か得か、お金がどうこうとかではなくて。自分の命の使い方として満足がいくかどうか、それが価値判断の基準にある社会です。人のものを奪って一部の人が大きな富を持つのではなく、差はなるべく少なく、持っている人もそこそこに、持たない人も暮らしに困らない社会がいいなと思っています。ただし、あまり突き詰めすぎて、共産主義のようになることは求めていません。ある程度は努力した人が報われる社会じゃないといけない。そして子供や女性、お年寄りとか、物理的な力がない人たちが安心して暮らせる社会がいい。強い人たちがだけが活躍して富を握って動かすのではなく、社会的に弱い人たちが安心して自分たちの人生を謳歌できる国が日本だといいた。あと、もう一つ大事な事は、世界には悪い人もいるので、平和だけど侮られない国づくり、社会づくりをしていきたい。普段は温厚でみんな平和に暮らしているけれど、いざという時には一致団結して、ものすごく強い防衛力を発揮するというイメージです。『優しさと強さを兼ね備えた公正な国』それが私の目指す日本の理想の姿なのかもしれません。④



## “優しさと強さを兼ね備えた公正な国”



そして、同時進行でやらないといけないのは国民づくり、つまり教育ですね。教育は国家百年の計ですから。教育が弱くなっているところに我が国の根本的な問題があると思っています。  
国のビジョンが独立自尊であれば、個人も独立自尊なんです。自分のことは自分でやる。自分の暮らし、仕事、意識をちゃんと自分で作り上げ、磨き上げていくための力が教育に求められます。  
今の教育は管理教育で偏差値教育。決まった答えを早く導いたり、指示通り動けたりする人が作られているような教育では、国家は独立できません。自分の頭で考え、自分の足で立ち、強いアイデンティティや愛国心を持って「社会の一員として、日本人として活躍したい。社会を良くしたい」という若者がどんどん誕生する社会メカニズムを取り戻さなければいけないと思っています。  
—— 教育の話が出ました。党の教育政策は「軍国主義」「懐古主義」という批判も聞かれます。この反応についてはどう捉えていますか？  
**神谷** 一言でいえば「戦後教育のすり込み」だと思います。GHQによって、戦後の日本ではいろんなものを変えられた。でも「それで日本が良くなった」と思っている人からすると、昔のものに戻そうという話は「イコール戦前」「戦前は戦争をやっていたから軍国主義」という見方の狭い発想になるんです。一方私たちの前提は「戦後の占領された後の日本には問題がある」という考え方です。歴史観でいうと「東京裁判史観は間違っている」というところから始まります。「じゃあ戦前に戻すのか」というと、私は明治以降の戦前の日本がいいとは思っていません。では、どの時代がモデルかといえば、江戸時代です。戦争もなかったし、国は300もの藩に分かれて地方分権でやっていった。地域ごとに文化や伝統もあって、教育も藩が自主運営でやっていった。日本人はその時代からそれだけのことができる民族なんです。  
—— 参政党はその教育政策などで対外的に保守と評価される一方、農業や医療など、従来の左派が関心を持つ分野

# 参政党は、国会議員が 18名の政党になりました。

参政党は「今の政治、日本の未来」に危機感を持った一般の人々が集まり、2020年に小さな政治団体として発足しました。大企業や宗教団体などの支援を受けず、一人一人の党員が活動を支える形です。2022年の参院選で国政政党に。さらに2024年、2025年の国政選挙を経て現在18人の国会議員が所属。地方議員を合わせると全体で175名（2025年9月現在）の議員が所属する「小さいけれど力強い」政党です。



## 神谷宗幣

Kamiya Sobei  
参議院議員(全国比例)

日本を自立した、強く豊かな国にしたい。そのために一番力を入れたのは教育。日本人としての誇りを持ち、自分の頭で考え、それぞれの才能を活かして社会に貢献できる人材の育成に尽力します。人づくりが国づくり。

党代表、事務局長  
ポードメンバー



## 吉川里奈

Yoshikawa Rina  
衆議院議員(比例九州ブロック)

一人の国民として、看護師として、そして母として、子供たちの未来を想い政治を志しました。愛する家族を守り、地域・国・世界に、大きな調和をもたらすことで、日本人としての普遍を次世代へつなぐ政治を目指します。

党副代表  
ポードメンバー



## 安藤裕

Ando Hiroshi  
参議院議員(全国比例)

一億総中流と言われた時代を取り戻したい。「改革」「改革」と叫ぶのではなく、国民の多くが「今日と同じ仕事を明日も真面目にしておけば大丈夫なのだ」と感じられる国を取り戻したい。そう思って日々活動しています。

幹事長、政調会長  
ポードメンバー



## 梅村みずほ

Umemura Mizuho  
参議院議員(全国比例)

この世に生を受けてから天寿を全うするまで、すべてのライフステージにおいて、「この国に生まれて良かった」と思っていただけ。そんな日本を創るため、「日本の国益を守り、世界に大調和を生む」という尊い党理念を胸に抱き政策実現に走ります！

参議院国対委員長  
ポードメンバー



## 岩本麻奈

Twamoto Mana  
参議院議員(全国比例)

医師としてのホリスティックな知見を政治に生かし、科学と哲学、伝統と革新を融合させ、「美しい生き方」を国のかたちに。人が健康に、心豊かに暮らせる社会を築き、未来の子供たちに誇れる日本を残すため、全力で闘ってまいります。



## 大津力

Ohtsu Tutomu  
参議院議員(埼玉県選挙区)

私は「日本再興」の実現が、天から与えられた使命とっております。またその活動に取り組めることに、無上の幸せを感じております。幾多の困難も同志と手と手を繋ぎ、乗り越えて行きます。日がまた昇るその日まで。



## 初鹿野裕樹

Haijiko Hiroki  
参議院議員(神奈川選挙区)

日本は皇紀2685年、世界最古の歴史を持つ国の一つ。今後も日本の素晴らしい歴史・伝統・文化をしっかりと後世に引き継いでいきたい。この日本に生まれて良かった、誰もが誇りに思えるような国にしたい。



## 杉本純子

Sugimoto Junko  
参議院議員(愛知県選挙区)

私は日本人の誇りを胸に生きる事に幸せを感じられる国づくりを目指します。農林水産委員会の為、食と健康、食料自給率の上昇、第一次産業従事者の安定できる所得補償、外国人問題など現場の声を聞き皆様と進むべき道と一緒に考え国まもりに繋がる政治を追求し続けて参ります。



## 塩入清香

Shioiri Sayaka  
参議院議員(東京都選挙区)

政府に足りないのは財源ではなく、国民の愛情です。国民が苦しむ一方、税収は毎年史上最大になっているのに、減税政策に背を向ける歴史上例がない酷い棄民政府から、真に国民を救う政府を実現するため、戦い続けます。



## 松田学

Matsuda Manabu  
参議院議員(全国比例)

参政党創設メンバーとして党の基本理念に基づき、日本の国柄をもって今後の地球文明をリードする国づくりを担う政治と、私の経済財政プランの実現に向け、政官界での人脈を活かしつつ、党の各議員と共に国会活動を進めていく所存です。

両院議員総会長  
参議院議員会長



## 鈴木敦

Suzuki Asushi  
衆議院議員(比例南関東ブロック)

私の政治原点は「身近で、簡素で、わかりやすく」の三点です。昨今の政治界隈は自分には関係がなく、複雑で、わかる人にしかわからない。これでは政治に関心が向くはずありません。政治を我々の手に取り戻しましょう。

衆議院国対委員長



## 北野裕子

Kitano Yuko  
衆議院議員(比例近畿ブロック)

敵を作らず、皆で日本を良くする「調和」と「繋がり」を大切に政治を目指します。右も左も関係なく、子供たち、孫たちのための国を作り、日本に生まれ良かった！と思ってもらえるよう誠心誠意取り組みます。

衆議院国対副委員長



## 山中泉

Yamanaka Sen  
参議院議員(全国比例)

国民が安心して暮らし、次世代が夢を描ける国を築くため、日本の伝統と誇りを守ることに全力を尽くして参ります。そして、世界の反グローバル化の動きと連帯し、強い日本を取り戻すために邁進していきます。



## 安達悠司

Adachi Yuji  
参議院議員(全国比例)

国民が政治に参加して、先人の叡智を生かし、天皇を中心についにまとまる平和な国をつくる。この原点に返り、憲法を一から考える「創憲」を通じて、代々受け継がれてきた「國體」を守り、皆様の思いを代弁してゆきたいと考えております。

参議院国対副委員長



## 後藤翔太

Goto Shota  
参議院議員(全国比例)

「誇り高き日本、未来への結束」。これが私の政治家としての行動原理です。日本の叡智を集結し、直面している様々な危機的問題を乗り越え、「いい国になった」そう思ってもらえるよう、政治家人生を全ういたします。



## 櫻井祥子

Sakurai Shoko  
参議院議員(茨城県選挙区)

いま一番必要なのは、国民が「日本はまだまだやれる！」という希望や自信を取り戻すことです。政治に参加すれば変化があるという実感や皆さんに感じていただくために、国会での活動をわかりやすく発信します。

参議院国対副委員長



## 宮出千慧

Miyade Chisato  
参議院議員(大阪府選挙区)

日本の伝統と「和」の精神を守り、自立した国家を築くために。自尊心を高める教育と経済の立て直し、国まもりなど、党員や府民の皆様の思いを形にできるよう、全力を尽くしてまいります。いくで！やるで！宮出！



## 中田優子

Nakada Yuko  
参議院議員(福岡県選挙区)

私は、国民の皆様が安全かつ安心して暮らせる社会の実現を目指し、官民一体となって誠実な政治を行います。また日本の真の自立を実現するため、国の護りを強固にするとともに、他国との対話を併せて取り組んで参る所存でございます。

◎議員の人数  
**175**名  
国会議員 18名  
都道府県議会議員 9名  
区議会議員 13名

◎所属議員の平均年齢  
**47.3**歳

◎所属議員の男女比  
男性 **110**名 | 女性 **65**名

◎支部の数  
**289**支部  
※2025年9月現在



参政党では、  
こんな人たちが  
がんばっています。

These are the people  
working hard at SANSEITO.

子供たちのために、頑張れば希望が広がる日本を取り戻したい!!  
そのためにはまず日本が大好きな子供を増やし、暗記型の偏差値教育から日本や社会の未来を考える力を育む教育に変えます。日本の文化や精神性を身につけて、お金至上主義の世界を変えていく人材を育てます。また、医療費を下げるために食と健康を見直し、農業を守って安心安全な食糧供給体制をつくります。さらには積極的な財政支出と減税政策で経済を立て直し、少子化を食い止め、過度の移民受け入れや外国資本の流入にも規制をかけます。参政党は日本とそこに暮らす人々の事を第一に考える「日本人のための政党」です。



参政党は、こんな国を  
目指しています。

This is the kind of country  
SANSEITO aims to create.